

-----  
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

-----  
タイトル：「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究 (2)」(令和元年度第 1 回研究会)

日時：令和元年 10 月 26 日 (土曜日) 午後 13 時より午後 18 時

場所：本部管理棟中会議室

報告者名 (所属)：李勝勳 (AA 研共同研究員, 国際基督教大学)、参加者全員 (6 名)

1. 報告者：李勝勳 (AA 研共同研究員, 国際基督教大学) 「R 言語を使ったマイクロ・バリエーションの相関分析」

バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションを類型化するための 142 のパラメータには、パラメータごとに複数の value が用いられている。142 のパラメータ間の相関関係を算出するために、統計の基本および R 言語を用いてできることを、パラメータ 8, 9, 10 を用いて紹介した。既存のパラメータの value は、数も種類もアドホックなものであり、統計処理するのに適していない。そこでパラメータごとに value の名称を再検討し recode する必要があること、また意味のある統計をするために、ある程度、相関関係を比較検討するパラメータを絞りこむ必要があることを提案した。

本発表を受けて、次回研究会にはパラメータ間の相関関係を算出した上で、対象とするパラメータを選び出し、検討することが提案された。

2. 報告者：全員「主語のプロパティに関するデータ提供と議論」

研究会メンバーの米田・森本両氏が主語のプロパティの類型を行うために作成した “Subject questionnaire” について、メンバーが各自の研究言語で収集したデータを提供した。今回、検討対象としたデータは、チガ語 (JE14) (米田)、ウル語 (E622) (品川)、ニャキューサ語 (M31) (阿部)、シャンバー語 (G23)、パレ語 (G22)、内マア語 (G221A) (いずれも安部)、ニョレ語 (JE35) (宮崎) の 7 言語である。米田氏をファシリテーターとして、これらの言語データについて具体的な例文とともに検討し、メンバー間で類型の妥当性を議論した結果、これまで 3 分類の類型としていたが、バツサ語とニョレ語の振る舞いから、新たな分類を 1 つ加える可能性が提案された。また、「B. 主語と主題性がある程度関係している言語」という分類にはかなりの幅があり、B タイプのさらなる分類が可能であること、「C. 主語と主題性がほとんど関係ない言語」の地域的特徴が議論された。

3. 全員「本研究会の年次計画について議論」

第 2 回研究会を、3 月 28、29 日に開催予定であること、またその研究会のトピック、準備

について話し合った。品川、李、阿部が 142 パラメータの相関関係を算出し、比較検討するパラメータを選ぶことを確認した。比較検討にあたっては、品川、李、阿部が 3 月上旬に実施予定の Venda University (南アフリカ) でのワークショップで見込まれる南部バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションのデータを統合する。